

理系は
無限大

science is infinite

祝内定者インタビュー



JAL
日本航空株式会社パイロット

瀬野 龍矢くん

Q. 率直な感想

A. 新型コロナウィルスの影響下で航空業界が大打撃を受けている中、内定を頂けたことに正直ホッとしています。また、これまで支えてくれた家族や教官、同期に対する感謝の気持ちでいっぱいです。

Q. 大学生活での思い出

A. フライト訓練がやはり一番の思い出として残っています。私たちは航空会社に就職するために米国で2回日本で2回のフライト試験に合格しなければなりません。簡単な道のりではありませんでしたが、日々の座学、フライト訓練を同期と切磋琢磨しながら乗り越えてきた事が私のかけがえのない思い出です。訓練で見た空の景色は何度見ても綺麗でした。

Q. 学科・専攻を選んだ理由

A. 私は東京の城南島海浜公園で飛行機を見たことをきっかけにパイロットを志しました。そこでライセンス取得するための手段を模索していた時、当時は1期生の特集を地元テレビで放映していました。実際の訓練や寮での生活の様子を



見て、具体的な今後の学生生活がイメージできた事、地元鹿児島の空を飛びながら訓練したいと考えた事をきっかけに、迷わず現在の航空工学科操縦学専攻を志望致しました。

Q. 講義や演習について

A. 航空に関する授業は特に力を注ぎました。初めは航空の知識や理解する事の多さに驚きましたが、今後の訓練に直接的に役立つと考えましたし、将来何百ものお客様の命をお預かりする者として、責任感を持って真剣に授業に取り組んでいました。一番好きな授業はフライトシミュレーターを使用したトレーニングです。これは飛行機のシミュレーターを使用して実際の飛行環境を再現し、地上にいながらリアルなフライトを体験できます。この授業は自分がどれだけ準備をしたかが直接評価に反映されるので大変やりがいを感じました。

Q. 霧島での生活について

A. 操縦学専攻の学生は基本的に寮生活を送ることとなっていますが、寮の周りにはいろいろな商業施設があつて不自由はありません。また近くには温泉があり、リフレッシュしやすい環境だと思います。また大学・寮の近辺は鹿児島空港に離発着する

飛行機の飛行経路になっていますので、パイロットを目指す学生にとってはモチベーションを保ちやすい環境ではないかと思います。

Q. 将来のビジョンについて

A. まずは入社してからの地上業務にしっかりと取り組み、副操縦士に確実になりたいと思います。学生時代よりも大変で厳しい訓練が待っていると思いますが、それを乗り越えてできるだけ長く乗務し、日本の空を支え、多くのお客様に喜んで頂けるパイロットを目指します。

Q. 後輩へのメッセージ

A. 航空業界は奥が深く、難しいですがそれにも勝る楽しさ・やりがいがあると思います。第一工業大学には航空に精通された素晴らしい教授が居られて、航空を学ぶにはこの上ない環境です。航空業界に同じ志をもって入学してくる学生さんたちと切磋琢磨しながら、将来の日本の航空業界を皆さんと一緒に盛り上げができる日を楽しみにしています。第一工業大学で待ってます！



インタビュー動画はこちら↑